

## 疾患名

重症筋無力症

## 病気について

重症筋無力症（myasthenia gravis: MG）

重症筋無力症は、末梢神経と筋肉の接ぎ目（神経筋接合部）が自己抗体によって破壊される病気です。筋肉が疲れやすくなり、筋力低下をきたしますが、休むと回復します。眼瞼下垂や複視などの眼の症状だけの場合は眼筋型と呼び、全身にも症状があるものは全身型と呼びます。重症になると、嚥下がうまく出来ない例や、呼吸筋の麻痺をおこす例もあります。

多くの例で胸腺の異常（胸腺過形成や胸腺腫）を認めますので、自己抗体が作られる理由と胸腺との関連が考えられています。自己抗体には、抗アセチルコリン受容体抗体と抗筋特異的受容体型チロシンキナーゼ抗体があり、血液検査で調べることができます。

## 治療について

対症療法として、コリンエステラーゼ阻害薬（神経から筋肉への信号伝達を増強）を使います。病気そのものに対する治療として、免疫治療が行われます。副腎皮質ステロイド薬、免疫抑制薬、アフェレシス、免疫グロブリン静注療法、補体阻害抗体製剤（ソリリス®）などの治療が認められており、病気の状態や自己抗体の種類によって使い分けます。また、胸腺に異常がある場合は、外科的な治療が検討されます。

## アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：あり

（発症5年以内で重篤な症状悪化傾向のある場合、または胸腺摘出術や副腎皮質ステロイド薬に対して十分に奏効しない場合に限ります。）

アフェレシス療法の種類：血漿交換、二重膜濾過血漿分離交換、免疫吸着法（ただし、免疫吸着法は抗筋特異的受容体型チロシンキナーゼ抗体陽性例では無効です。）

回数：一連について月7回を限度として、3カ月間に限って行います。